



第13回総会開く

第13回深澤晟雄の会総会を6月16日沢内バーデンで開きました。総会には細井洋行町長と高橋雅一町議会議長の出席を得て祝辞をいただきました。

総会では30年度事業報告と決算、今年度事業計画と予算が原案通り承認されました。今年度の主な活動は次の通りです。

活動資金の確保

資料館入館者の減少に加えて町補助金が10万円減額となつて活動資金の確保が課題です。このため、会員の拡大や寄付金を仰ぐ広報活動などを重点に取り組みます。

資料館で英文も

資料館入館者の国際化に伴つて、関係機関・団体の協力を得て展示資料の説明に英文表示も加えることにしました。

子らの食を支援

今年もフードバンク岩手を通じて、食に恵まれない子どもたちのために食材を提供する取り組みに参加します。町民の皆さんのご協力をお願いします。

無料化から60年

来年は昭和35年12月から老人医療費無料化実施から60年を迎えます。その後の歩みを検証するとともに記念年の資料展示や資料館ガイドに反映させる活動に取り組みます。

町の招待で駐日大使来館

町職員のガイドに感謝

東京五輪を機会に交流を深めようと西和賀町が招いたアフリカのコートジボワール共和国の駐日大使一行3人が6月17日、資料館を訪れました。一行は18日にかけて西和賀高校生との交流など、町内の各種施設の視察と関係者との交流を深めました。資料館は西和賀さわうち病院の高橋光世事務長(写真中央)のガイドで、生命行政の深澤村長とその業績を紹介し、人類普遍の生命尊重の深澤理念は今日の町行政と町民一体で継承されていることを印象づけました。

大使官代表は感想ノートに「資料館スタッフの皆様に対してご説明に感謝します」と記していますが、通訳は教育委員会のエリオット国際理解推進員(写真右)で、すべて町職員のガイドでした。それが今後とも心置きなく交流できる西和賀町を認識したとも読み取れます。



大使官代表は感想ノートに「資料



資料館の

感想／ノートから

創造的で責任感

私は岩手県で多くのことを学びました。深澤村長と旧沢内村の人たちは「創造的な考えと責任をもって行動すること」のお手本でした。

結論として、日本の保健福祉の取り組みは「人々の意識を高めさせる」と感じました。

(アフガニスタン・公衆衛生省 産婦人科医)

JICAに感謝

私は、JICAが「とても有名な深澤村長とその使命、さらに旧沢内村での出来事を紹介してくれたこと」にとっても感謝しています。

(アフガニスタン・公衆衛生省 産婦人科医)

村長の業績継承

こんなに立派で歴史的な地域に来ることができて嬉しいです。この地域の皆さんの優しさに感謝しています。

深澤村長は勇敢な人であり、その業績は若い世代に引き継がれていると思います。

(タジキスタン・周産期科学研究所と保健センター 産婦人科医2人)

三悪追放に感動

「豪雪・貧乏・多病」の三悪を追放するために、深澤村長は頑張りました。村の未来のために創造的な取り組みを続ける姿に感動しました。

(ミャンマー・保健スポーツ省 北部公衆衛生部副部長)

深澤村長に学べ

多くの人が深澤村長のことを学ぶ必要があると思います。旧沢内村の人を助ける深澤村長は勇敢で、自分のことより村民のことを考える素晴らしい人でした。

(ガーナ・保健サービス局 助産師)

日本を変えた人

深澤村長を偲んで記します。彼は旧沢内村を変えて、日本の保健医療制度を変えた人でした。

(ガーナ・公衆衛生プログラム監督官)

深澤村長手本に

深澤村長の「旧沢内村の人たちの命を救う姿」に好感を持ちました。彼は自分のことより村のことを考えて頑張りました。深澤村長を手本として私も頑張りたいと思います。

(ガーナ・保健サービス局 保健師)

今年もJICA（ジャイカ＝国際協力機構）の案内で2月1日、母子保健を研修テーマに4か国から女性9人が資料館を訪れました。感想ノートの英文で翻訳を町の教育委員会学務課にお願いしました。写真は深澤村長の机を囲む入館記念写真です。感想文に続く（）は国名と所属部署・職名等で個人名は省略しました。